



### サーファーガールとダビットソン

君のミニクーパーは空の色  
白いレザーシートの雲に乗り evreyday  
前傾姿勢  
アクセルいっぱい窓は全開

オレのハーレー タンクは夕陽色  
自慢の音を聴いたかドドドン 今日も  
あの子探して 茅ヶ崎 鎌倉 城ヶ島まで

Sufer Sufer Girl  
白いネイルに貝と花 Aha han  
まぶし過ぎるよ  
小さなビキニで波の上 マハロ!

誰か名前を教えて サーファーガール  
服はピンクかボーダー、ラッシュガード evreyday  
海が恋人  
ボードの上で波とハグして

Sufer Sufer Girl  
いつでも気ままに day by day Aha han  
捕まらないよ  
焼けた素肌で振り向いて マハロ!

### Club Labyrinth

寄り辺ない 寂しさを 夜の底に沈めて  
帰れない迷い子は 戻り道を知らず

うらぶれた吹き溜まりに  
今夜も灯りともり  
夜明けまで眠らない  
ダウンタウンあたり 25 時

Club Labyrinth 「今夜はようこそ」  
霧の彼方の また向こう  
ドアを開ければ パズルが続く  
似合い過ぎる名の BAR

何も聞かずにいつものリキュール  
出口はどこか 教えてくれよ  
知っているんだろ? 笑ってないで  
ダウンタウンあたり 行き惑い

心失くした見知らぬ客も ひとりにさせないところ  
陽気に騒ぐ訳でもなしで あいつに似てるどころ

なんでも欲しがらるクセ すぐに覚める夢  
口に出すのは きれいな事  
繰り返しては またここに来る  
ダウンタウンあたり 25 時

夜は長く 夜明けは遠い  
人生は短くて 汽車のように過ぎ去る  
だけどそれだけに 面白いんだ  
立ち止まって つまらない事を 考えない事だ

### 真夏の時計

真夏の時計は 少し遅れて  
たよりなさげに コトコト進む  
誰でもそれに 構いはしない  
優しく時を 刻むから

消し忘れの ラジオからバラード  
メディアムテンポで カラダを揺らす  
ah Summer Time 君と出会った  
uh Summer Time 気まぐれな夏

昨日見た夢 思い出してた  
ダイジョーブ 忘れてないよ  
どこか遠くへ 行こうとしたら  
急に天使が 現れたんだ

旅に理由は 何もいらさないさ  
何かを探しに 行くだけだから

ah Summer Time 夢は正夢  
uh Summer Time 約束しようか

この世で一番 深いものは何?  
それは測りきれない 人の心 知っているのか  
真夏のバスは いつでも遅れて  
知らないふりで コトコト走る

君は大きな麦わら帽子  
飛ばないように しっかり押さえて  
ah Summer Time ふたりで Sunset  
uh Summer Time 真夏の時計

### 常夏交差点

愛していると言ってごらん 3回続けて  
ひとりぼっちで沈んでるより  
いくらかマシな熱帯夜

6万年もの風が渡る 永久の大地で  
必然 お前と巡り会う  
悪くはないシチュエーション

赤道直下のエンドレス  
ふってふられて恋いこがれ  
I Love you を砂に書き  
波に流してまじないかける  
優しくするな 慣れてない  
背中を見せて追いかけて  
白い瞳で振り返れ 目映い夏を捕まえに

右にウインカー出して左折しろ 常夏交差点  
うまくいく方法は 100 通り  
どこまで続く 熱帯夜

希望の夜空に限りない星 知らず知らずに  
掌にとり お前にあげる  
頼っていいんだ タフに行こう

赤道直下のエンドレス  
ふってふられて恋いこがれ  
I Love you を砂に書き  
波に流してまじないかける  
優しくするな 慣れてない  
背中を見せて追いかけて  
白い瞳で振り返れ 目映い夏を捕まえに

### 角砂糖ひとつ

別れの理由をいくつ数えても  
みつからないのは冬のせい?  
冷たい2月の空をわたり  
あてどない 草枕

疲れたバイクは音がうるさい  
アクセル開けても坂を登らない  
仕方ないさと 引き返すにも  
帰り道は 遠すぎる

Oh こんな季節に  
上着を脱げと誰が言う  
欲しいものは 熱い珈琲  
角砂糖ひとつ  
苦しいほどに せつなくて

薔薇の花卉を頭上に浴びて  
微笑む時にごめんはいらぬ  
鳥は飛ばせる 魚は泳がせる  
幸せの意味はそれ

Oh こんな夜更けに  
どこへ行くのか ひとりぼっち  
欲しいものは 熱い珈琲  
角砂糖ひとつ  
苦しいほどに 悩ましい  
死にたいほどに 逢いたくて

### 赤いサンダル

波で濡らした ワンピースの裾  
乾くまで 帰れないよ  
両手にさげた赤いサンダル  
ほおりなげれば 夏のはじける

どうでもいいんだけど なんでもないんだけど  
潮騒の中じゃ 聞こえなかったら  
ひとりごとなんだよ みつけたんだ大切なひと  
ウソじゃないよ カモメに聞けよ

風にとばした 麦わら帽子  
波打ち際じゃ 仕方がないね  
波間に浮かび ゆらゆら揺れて  
水平線まで 旅していけよ

どうでもいいんだけど なんでもないんだけど  
サングラスなしじゃ 眩しすぎるよ  
君のことなんだよ みつけたんだ大切なもの  
ウソじゃないよ 聞き返すなよ

ダッシュボードに貝殻まいて  
クルマのシートも砂だらけだよ  
ひと夏このまま ほおっておくよ  
海の匂いをそのままに

どうでもいいんだけど なんでもないんだけど  
潮騒の中じゃ 聞こえなかったら  
ひとりごとなんだよ みつけたんだ大切なひと  
うそじゃないよ カモメに聞けよ

### せみしぐれ

どっちの方が 悪いかなんて  
言い出したのは 真夏の街  
空のない日も 空を嘆かず  
wow wow wow 生きて来たんだ

自分だけの ものなんか  
探してもない とうに知ってる  
恋人さえも それはそう  
wow wow wow すれ違いの夏

Good bye. Bye bye Girl  
背中むけて手を振って  
Bye bye Street  
涙ひとつ 残してくれ それでいいんだ  
あたりは蝉しぐれ とんだ勘違い  
いいやつだったろオレ?  
忘れそうにないだろ?

一秒でいい 祈っておいた  
いつかまたなの 捨て台詞  
渡りきれない 大きな河だ  
摘んではいけない 夏の花

出会いはいつも 突然で  
眩しい程の 君は Rising Star  
目と目が合って いきなり夢中  
wow wow wow 走りだす

Good bye Bye bye Girl  
背中むけて手を振って  
Bye bye Street  
あたりは蝉しぐれ  
とんだ 夏祭り  
いいやつだったよ 忘れそうにないよ

### 川を下ろう

高い木のとっぺんで しきりに百舌が鳴く  
青い空も雲も わたしのものだと  
ひとりでは辛かろうに 友も持たずに  
獲物捕らえ冬支度 ひたすら雪を呼ぶ

風が林を抜ける コスモスが揺れる  
みんな お前のものだ

そうだ Down by the River  
荷物を下ろして  
ひかり溢れる 川を下ろう  
そうさ Down by the River  
パドルを捨てよう  
流れのままに すべてを ゆだねて

水は鏡のように ひとを映し出す  
心のささくれを どこまで運ぶ  
木の葉の舟がゆく 霧の森を抜け  
この谷を越えれば ひととき風は止む

時はゆるやかであれ そうだ幸せは小さくあれ  
いつも いつも この川のように

そうさ Down by the River  
重荷を下ろして  
うるこきらめく 川を下ろう  
そうさ Down by the River  
おのれのはやさで 漂うだけで  
失くしものが きっと見つかる

Come with a paddle  
Let's row slowly



### 誕生日おめでとう

長い坂を登り続け  
やがて大きな海につく  
君は小舟を繰り出して  
水平線に夢を追う  
Happy Birthday to you  
Happy Birthday to you  
こんな日に君を祝えてうれしい  
Happy Birthday to you  
Happy Birthday to you  
Happy Birthday my friend.  
Happy Birthday to you

### 大波小波で日が暮れて

君と住みたい 海べりの町  
ビーチサンダル ふたつ並べて  
顔はまっくらけ 目尻はシワだらけ  
それでもいいんだ シアワセだらけ

君と住みたい 海べりの家  
豊かな時の 流れる所  
サーフボードを 自転車に積み  
波がなくても プッカプカ

大波小波で日が暮れて  
夕焼け小焼けで夜がくる  
海の魔法にとりつかれ  
裸足で踊ろう フラガール  
死ぬ時どうかじゃなくって どう暮らすかだ

乾いたハートに 元気下さい  
悩みがあれば 捨て下さい  
海より広く 空より高く  
こんな我らに 明日下さい

悩みがないのと 悩まないのは  
似ているけれど まったく違う  
何がなんだか わからないまま  
冗談ビーチで かくれんぼ

大波小波で日が暮れて  
夕焼け小焼けで夜がくる  
涙や怒りは どこにある?  
海岸通りに 置き忘れ  
死ぬ時どうかじゃなくって どう生きるかだ

### rain rain rain

篠突く雨に 両手を広げ  
僕は飛行機になる  
薄紅色の小さな花を  
道で手折って あなたのもとに  
rain rain rain rain

息のかかるほど すぐ側にいて  
言い訳をどうか許して  
君のいない日々を なんて言えば  
I'm all your side 帰ってほしい

愛されたい その願いが  
きっとひとを愛する事なんだ  
水に溺れる蟻のように  
もがきつづけて 行き場のない街

思いがけずに 見る夢はいつも  
ここではない どこか  
僕を運んで 優しい雨よ  
そしてそのまま 目醒めさせて  
rain rain rain rain

静かな雨は 心を鎮め  
なにもかもを 連れ去る  
窓辺を濡らし 歩道を濡らし  
あなたを盗んでゆく

愛されたい その願いが  
きっとひとを愛する事なんだ  
水に溺れる蟻のように  
もがきつづけて 行き場のない街

### 花飾り

風吹けば 風吹くままに  
花飾り 路傍の夢よ  
季節はずれの コスモスひとつ  
揺れてなおさら 愛しいばかり

ああ青空に生まれ 黄昏に育ち  
星降る夜更けに 恋をして  
明日晴れたら 花を咲かそう  
季節はずれだと 笑わば笑え  
明日雨降りゃ 濡れて歩こう  
傘など持たず 夜明けまで

愛すれば 愛するほどに  
過ぎ去れば 過ぎ去るほどに  
重ねゆく 記憶の森よ  
彷徨って あせる事なく

ああ うな垂れた街で  
うつむいているのは  
誰でも知ってる 俺じゃない

明日晴れたら 花を咲かそう  
季節はずれだと 笑わば笑え  
明日雨降りゃ 濡れて歩こう  
傘など持たず 夜明けまで